

だいせつざんのすがお

大雪山の素顔

山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人たちをリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

実りの秋はヒグマの季節

9月、大雪山は急速に秋から冬に向かう実りの季節です。冬眠する動物はせっせと栄養価の高いものを摂り、冬に備えます。ヒグマも例外ではなく、秋はハイマツの実やハクサンボウフウの根などを食べた跡が多くなります。

「ヒグマ」と聞くと、秋田の事故が記憶に新しいところです。勇駒別(旭岳)温泉が発見された1915(大正4)年には苦前の三毛別で、旭岳温泉の道路が舗装整備された1970(昭和45)年には日高の山中で大きな事故が起きました。

大雪山では五十数年前に起きた沼の平での事故以来、死者はありません。しかし北海道全体ではこの間、ほぼ1年に1人の割合で死亡しています。

多くは山菜採りや狩猟、駆除の最中で、登山や観光は少数ですが、同じ動物による被害です。危険な距離



▶ヒグマがやぶのむこうにいました(大雪山高原沼で)

◀兄弟グマが雪渓上でじゃれあっていました(大雪山高原沼で)

の遭遇は大雪山でも少なくありません。

人気のやや少ない山を歩く時のセオリーは、やぶや霧の向こうのヒグマに、こちらの通行の意思を伝えるため、鈴や笛などの音を立てることです。爆竹や花火は余りに人迷惑な上、銃の恐さを知らない熊の場合、単に興奮をあおるだけかもしれません。

それでも熊が退いてくれないようなら、それは何か大事なものの、貴重なエサや子どもが存在を疑います。この場合穏やかに遠回りすることが最善の方法です。他の多くのことと同様に、時間的、精神的な余裕はリスクを軽減してくれます。

旭岳ビジターセンターホームページ

<http://www.welcome-higashikawa.jp/info/?c=16>

旭岳ビジターセンター 管理主任 菊地 基

俳句

遠くより聞こえし子供盆踊り	夏料理色美しきまよい箸	書く程の願いもなく星祭	下駄ならし七夕まつりやあねいもと	網戸ごし茂りあふ樹の背競べ	地上より願ひあふれて七夕夜	盆帰省無骨になりし子の掌かな	建築の釘のこぼれる炎天下	願ふことひとつ書きたる星祭	住み慣れしこもふるさと鳳仙花	心地よく琴の音色の網戸ごし	夏休み児等と体操清清し	お隣りのだんらん千らり網戸かな	星祭り髪のはしりはそのままに	大暑なり我が町誇る伏流水	網戸通す風の道あり孫と居て	張り替えし網戸を通る風うれし
若田久	高瀬潤	石澤清宏	澤田久美子	松山蓉子	三島智	若田郁	秋山深雪	長谷川きみゑ	小林ろば	高橋公花	杉山ひろのり	保科なほ	徳光吐苦	杉山りつ	山口佐知子	横田則子

